



病院NEWS

no. 354
2013
12/01



The Hospital News, Faculty of Medicine Kagawa University



ささえる、つながる、リードする。
香川大学医学部附属病院
KAGAWA UNIVERSITY HOSPITAL

香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 千田 彰一

チーム香川による冠試合報告

糖尿病センター

糖尿病克服プロジェクト「チーム香川」(構成団体:香川県・香川県医師会・香川大学医学部附属病院)では、平成25年9月10日(火)・平成25年9月16日(月・祝)の2回にわたり、糖尿病に関して県民への啓蒙と地域貢献を目的に、地元球団である香川オリブガイナースの公式戦とタイアップして冠試合を開催いたしました。

10日は、医療情報部・特命助教の赤堀澄子先生による始球式、16日は、香川県の天雲俊夫副知事と当病院の千田彰一先生によるダブル始球式を行いました。どなたも見事なピッチングでしたが、特に千田病院長は、練習時から気合の入った投球で、さすが元野球少年と納得いたしました。

始球式の前には前述の方々によるあいさつもあり、香川県の糖尿病受領率がワースト1で死亡率も高いなどの現状とチーム香川の活動内容や11月に行った世界糖尿病デーイベント・ライトアップの周知をし、糖尿病への理解を深めると共に啓蒙活動を行いました。

また試合の際にチーム香川について何度もアナウンスがあり、5回裏の前には、プレゼントクイズで糖尿病に関する問題を出すなど大変盛り上がりしました。嬉しいことに2試合共、香川オリブガイナースが勝利し、チーム香川が勝利の女神だったのではと勝手に理解をいたしました。

来年1月号で11月の世界糖尿病デーの報告をいたしますので楽しみにお待ち下さい。



市民公開講座「痛み治療の最前線」開催報告

麻酔・ペインクリニック科 中條浩介, 白神 豪太郎

9月14日(土)サンポート高松にて、第50回日本麻酔科学会中国・四国支部学術集会在当科担当のもとで開催されました。同時に講師4名による市民公開講座「痛み治療の最前線」が併催されました。約80名の市民の方々の参加を得て、熱心な聴取と質疑応答がなされました。

第一部「慢性痛の治療」では、治療の目標をQOL(Quality of life:生活の質)やADL(Activity of daily life:日常生活の活動度)の向上・回復においた、慢性痛に対する最新の神経ブロック療法や薬物治療が紹介されました。

第二部「がんの痛みの治療」では、まず手術後の痛みを十分に治療することが術後の合併症を減らし早期離床を

促進すること、そのために様々な鎮痛方法、例えば硬膜外ブロック、神経ブロックや患者自己調節鎮痛法などが麻酔科医師により施行されていることが紹介されました。さらに、麻酔科医と看護師をコアメンバーとする香川大病院の術後痛管理チームの取り組みが紹介されました。

続いての講演「緩和ケア」では、がん患者さんを痛みから解放し安心して治療や療養生活を送ることを緩和ケアが可能にすること、緩和ケアでの痛み治療には医療用麻薬を上手に使うことが重要であること、安全に医療用麻薬を使用するためには医師の診察をきちんと受けることが大切であることなどが紹介・説明されました。



▲日本麻酔科学会中国四国支部 第50回学術集開催時の会長あいさつ

◀市民公開講座ポスター



◀市民公開講座開始時の座長あいさつ



地域連携精神医学講座は、平成25年4月に香川県の寄附講座として開設されました。香川県内の精神疾患患者の身体合併症診療システムの構築や精神保健指定医を増やすことを目的とした研修システム構築を目指した研究を使命としております。

スタッフは、新野秀人、助教・松村義人、そして精神保健福祉士・森有理佳です。

総合病院精神科は、各種身体疾患の治療を受けておられる患者さんの心の問題に対応し、また精神疾患患者さんの身体疾患の診療にもあたるなど診療機能は多岐にわたります。とは申すものの、総合病院精神科を取り巻く環境は過酷な状態と考えます。全国を見渡して総合病院精神科医が不足している県は少なくありません。香川県下の人口あたりの精神科医は国内でも少ないほうで、総合病院精神科の医師もまた不足しています。医師不足による総合病院精神科の診療終了や病棟閉鎖がこの10年間で幾つもありました。総合病院精神科が少ないなかで、県内の医療機関どうしが親密な連携を行い、診療機能を高めることができるのが重要課題と考えます。

本年7月に香川県が主催して行われた香川県地域精神科医療連携体制推進協議会において、精神科医療機関と身体疾患に対応できる医療機関（総合病院等）との連携体制を構築する施策について協議しました。そこで、現在の診療状況の課題を調査し、連携体制の基準制定を目的とした部会（香川県地域精神科医療連携体制推進協議会第一部会；以下、第一部会）を創設することが決定しました。第一部会は我々地域連携精神医学講座が主催することとなりました。年4回をめぐりに開催することになります。

第一部会の中では、身体合併症をもつ精神疾患患者さんの診療状況について概況と課題を医療機関ごとに提示していただくところから作業を始めています。精神科病院の先生方からは、紹介先医療機関や疾患内訳を示していただくとともに問題点を報告していただきます。総合病院は逆に紹介を受ける側ですが、精神科のみならず精神科以外の診療科の先生も各病院を代表して部会委員として参加していただいております。紹介患者さんの診療情報がうまく伝達されることは、円滑な連携の第一歩だと言えます。そして、身体合併症治療を総合病院で終えた後の療養環境の調整も大切です。第一部会では、様々な病院を代表する委員の先生方と香川県障害福祉課スタッフによる協議によって、このような連携が進む具体策を見いだすとともに、情報センター構想も検討していきます。

補遺

なお、当院の診療部門に当講座として診療科を設けておりません。当講座スタッフが精神神経科の一般外来での診療を行っています。

内科疾患は非常に広範囲にわたるため近年の大病院は、臓器別の専門診療科に細かく分かれていきます。しかし症状だけからは、どの臓器の疾患が決められない場合も多々あります。例えば「息切れ」や「動悸」の症状でも、循環器、呼吸器、血液のいずれの疾患でも起こり得ます。最初はひとつの専門領域の疾患と思われても検査するうちに膠原病や糖尿病など、他の専門診療科領域の病気が基盤にあることがわかる場合もあります。患者さんご自身では、その症状からどの専門診療科を受診すればよいか決められない場合は総合診療科が担当することが多いようです。その最たるものが、原因不明の発熱症状「不明熱」です。

古典的な不明熱の定義は「体温38.0℃以上の発熱を3週間以上の期間に2回以上認め、かつ3回の外来受診または3日間の入院検査で原因不明」とされています。不明熱をきたす疾患は200以上あると言われますが、最近の日本病院総合診療医学会の調査研究では不明熱の原因診断は、感染症25.5%、非感染性炎症性疾患(膠原病や血管炎など)30.8%、悪性腫瘍10.8%、その他(薬剤性発熱など)12.5%、原因不明23.3%だったと報告されています。原因確定のためには、十分に患者さんの話を聞く医療面接と身体診察を繰り返します。血液検査、血液培養、超音波検査、CTなど痛みの少ない検査を早期に行い、得られた所見に応じて病変部位を絞った検査を追加します。疾患を絞り込んだ上で必要に応じて近年注目されるPET検査を用いれば、炎症性または腫瘍性病変を高感度で全身性に検出できるため不明熱の原因診断に有効な場合もあります。しかし、どのような検査を行っても依然として原因不明の場合は残ります。この場合は自然に軽快していく例も含まれ生命予後は比較的良いといわれていますが、経過とともに異常所見が出現しないか慎重に外来で経過観察を継続する必要があります。また、不明熱には精神的ストレスなど「心の状態」が関与することもあるため、身体と精神を全人的総合的に診断・治療を行う総合診療医の専門性を求められる症候群と言えます。

毎日新聞「四国健康ナビ」 H25.10.9掲載

たかが白内障、されど白内障

「最近何かかすむなあ…」「昼間外出するとまぶしくって…」「視力が落ちて、見えにくい…」そんな症状で眼科を受診された方いらっしゃいませんか?それは白内障の症状として私達、眼科医が外来でよく耳にする訴えです。それでは「白内障」ってどんな病気なんでしょうか?手術の説明をする時などに患者さんに直接聞いてみると、「眼の中の何かが濁っているんでしょう?」じゃあ、何が濁っているんでしょう?私達はよく眼球をカメラに例えてご説明いたしますが、濁っているのは「水晶体」といわれる組織、いわゆるレンズなんですね。このレンズが濁ってくるために、外界からの光が曇った状態で眼内に入りものがかすんで見えたり、光が乱反射してまぶしく感じたりするわけです。この濁りは主に加齢によって進行しますが、他に外傷や糖尿病などの全身疾患に伴って発症することがあります。濁りが軽いうちはそのまま様子を見ますが、ひどくなって自覚症状がでてくると手術が必要になります。現在の白内障手術の主流は、2~3mmの傷口から超音波の器械で濁りの部分だけを吸い出し、濁りを包んでいた透明な袋をわざと残し、その袋に人工のレンズを入れるというやり方です。点眼麻酔で痛みはほとんど無く、手術時間も短時間で済みます。ただ、時に難しい症例が潜んでいます。見えにくいのを我慢し続けると、水晶体が非常に硬くなってしまい、手術が難しくなることがあります。もしくは、水晶体は眼内で細い無数の繊維によって支えられていますが、この繊維が弱い方は袋の中に人工レンズを入れられず、眼球の外壁の強膜という組織に直接縫い付ける必要のある方がいらっしゃいます。これらの難症例の方は手術中の思わぬ合併症で、期待した視力が得られない事もあります。そのような方は施設の整った医療機関で、白内障手術に熟練した先生に手術をお願いするのが良いでしょう。まずはお近くの眼科の先生にご相談を!

毎日新聞「四国健康ナビ」 H24.2.29掲載分を一部改稿いたしました

国際遠隔医療学会の開催

医療情報部 教授 横井 英人

第18回国際遠隔医療学会及びJTTA2013第17回日本遠隔医療学会学術大会の合同大会を2013年10月18・19日にサンポートホール高松で開催いたしました(大会長:原 量宏 香川大学特任教授 実行委員長:横井 英人)。

海外からの参加者は100人を超え、国内参加者も300人を超える盛況な大会となりました。会期中、海外の参加者と国内の参加者は積極的に交流・議論を行い、実りの多い大会となりました。また「香川の医療情報システムに大変興味を持った」とのことで、後日に香川大学病院を見学に来た海外参加者もいました。

新生児蘇生法のインストラクター養成講習会の開催

小児科 准教授 日下 隆



2013年9月7日(土)に、新生児蘇生法「専門」コースインストラクター養成講習会(1コース)を、香川大学医学部総合周産期母子医療センターが主催して行いました。本講習会は分娩に立ち会う医療スタッフを対象に、標準的な新生児蘇生法の理論と技術に習熟させることにより、全ての新生児の救命と重篤な障害の回避を目的としています。本プログラムは、国際蘇生連絡委員会(ILCOR)による『2010 Consensus on Science with Treatment Recommendations (CoSTR)』を受けた、日本版救急蘇生ガイドラインに基づくものです。本講習会では、「臨床知識編」「実技編」及び「指導編」で構成されたコースを行い、全国から受講者12名と教育スタッフ6名、事務スタッフ3名が参加しました(うち香川大学医学部からは教育スタッフ2名、事務1名が参加)。

香川大学総合周産期母子医療センターは、全国12か所にあるNCPR普及事業の四国で唯一のトレーニングサイトであり、その地区におけるNCPRの中心的な施設です。各地区のNCPR講習会の

開催への協力、スキルアップのための活動なども継続して行なわれています。

また、今年11月16日には香川県周産期医療従事者研修会が開催され、そのプログラムの中では、出生時に胎外呼吸循環が順調に移行できない新生児に対して、いかにして心肺蘇生法を行うべきかを学ぶ、実践的な新生児蘇生法「専門」コース講習会(Aコース)も受講者30名を対象に行われました。

臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長
医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

●臨床研究に関するご案内URL

<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~hospital/gairai/rinsyokenkyu.html>

イベントカレンダー H25.12~H26.2月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
12/1 日	8:40~17:00	かがわ国際会議場 サンポートホール高松	第109回日本内科学会 四国地方会	消化器・神経内科	(087)891-2156
12/2 月	17:30~19:00	医学部管理棟4階 会議室1	緩和ケア学習会・緩和ケアエキスパート研修	腫瘍センター	(087)891-2054
12/2月~1/10金	17:00~21:00	病院玄関	建物外イルミネーション	医事課	(087)891-2053
12/7 土	13:40~18:30	香川県医師会館	第93回日本小児科学会香川地方会	小児科学講座	(087)891-2171
12/8 日	12:00~16:50	香川県立保健医療大学	第6回香川県小児保健協会研究会	小児科学講座	(087)891-2171
12/16月~12/20金		病院1階治療管理センター横廊下、壁面	第22回職員作品展示会	医事課	(087)891-2053
12/14 土	15:30~20:00	JRホテルクレメント高松	開院30周年記念式典等	総務課	(087)898-5111
12/18 水	18:30~19:30	病院外来診療棟1階	第23回クリスマス音楽会	医事課	(087)891-2053
12/22日、23月	9:00~17:30	医学部講義実習棟2階	緩和ケア研修会	中核病院機能強化支援室	(087)891-2452
1/17 金	(未定)	病院地下1階オリーブの郷	がん患者サロンセミナー特別講演(仮題)「精神腫瘍学のお話」	がん相談支援センター	(087)891-2473
1/30水、31金	9:00~	かがわ国際会議場 サンポートホール高松	第24回日本頭頸部外科学会	耳鼻咽喉科学	(087)891-2214
2/3 月	17:30~19:00	医学部管理棟4階 会議室1	緩和ケア学習会・緩和ケアエキスパート研修	腫瘍センター	(087)891-2054
2/4 火	18:30~19:00	香川県社会福祉総合センター6階第一研修室	香川県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会	中核病院機能強化支援室	(087)891-2452
2/22 土	9:20~16:30	アルファあなびきホール 小ホール棟5階 多目的大会議室(玉藻)	第12回緩和医療に関する集中セミナーin香川	腫瘍センター	(087)891-2075

平成26年度 看護職員募集

看護師・助産師
85名募集

受付期間 平成25年7月1日(月)~
平成26年1月14日(火)

試験日

平成26年1月24日(金)

応募締切日

平成26年1月14日(火)

お問い合わせ先 087-891-2320(看護管理室)

編集委員会 (50音順)

石井(看護)、岩瀬(病棟)、岡田(総務)、
鬼村(医事)、梶川(検査)、加藤(放射線)、
唐木(外来)、白神(麻酔)、芳地(薬剤)、
松本(看護)、安友(管理)、横井(情報)、
〔委員長 千田病院長〕